

腐つたリンゴ

木村 一 治 (東北大)

そのころ、世の中は日ましに騒がしくなつて行つた。物資はしだいにきゆうくつに成り、日の丸の旗に送られて出征して行く若者が日増しに目につくようになった。それでも理研という所は比較的のんきな所で、みな勉強を楽しんでいた。Fermiを初め、Goldhaber-BriggsとかDunningなどが、あらかた面白い所を荒してしまつた後を、当時の西川研の連中は私自身を含めて落穂拾いをやつていた。ロータリーポンプが景気のいい音を立てる真空も不用で、中性子の測定という奴は初めから地味な方だつた。物理的に面白い現象はみなFermiにやられてしまい、私などただ黙々とScattering cross-sectionを測るだけだつた。まあcross-sectionという奴は基本的に重要な量だから少しでも正確に、できるだけいろいろな物質について測らねばど自ら慰めつつ来る日も来る日もカウントばかりとつていた。鳩山さん(現ソニーマグネスケール社長)と一しょにやり、実験がうまく行かない時などscatteringじゃなくてクサツタリンゴだなどと笑い合つていた。そのうち鳩山さんは海軍囑託になり、こんなこと何時まで続けてよいのやら疑問に思ひ、お前の研究なんざあ腐つたリンゴにも値しないと何度も自嘲した。これがまあ私の戦前の研究であつた。

シグマ委員会の性格も、しよせん同様か。似たようなデータ、しかも他人の測つたデータをコッコッせんさくして、縁の下の力持ちの見本のようなもの。概して日本人は好むまい。ましてや核データをいくら評価してもそれ自身は評価されず、財政的援助も乏しいとあつてはシグマ委員会がパツとしないのも無理はない。しかしそう云つて笑つては済まされないものがある。科学の面で我々日本はあまりにも先進国の作り上げたものを唯で頂戴して来た。あらゆる分野で基本的なものは欧米からそつくりもらつて来た。大部分が借りものであることを忘れ、この頃大きな顔をして世界中にのさばるから、嫌われるのは当然である。後進国援助に人並の金さえ出せばそれで済むと思つたら大まちがいである。

核データ初め、人の嫌がるあらゆる方面での基本的データを卒先して測定し、それを無償で世界の先進国、後進国に提供する——この位のことは当然やらないと、毎年々々80億ドルも100億ドルもお金の転り込んで来る我国が世界の嫌われ者になるのは目に見えている。それにしてもこの巨大なお金はどこにあるのだろう。私にはさつぱり実感が湧かない。

こう言う考え方、いわば道義的な考え方をするまでもなく、こんごはよほど何でも基礎からやる覚悟をしないと、明日の破たんを招くかも知れない。今日、日本の工業製品が何でも売れるといい気になつて居ても、明日はインド、中国などに追いつけられて来ることは明らかで、綿製品の歴史な

どふりかえつて見ても当然予想される。つまりこれからは借り物が通用しなくなる。自分自身でこういう基礎的なことやつて見ると、いかに金がかかり、大変なことだか分ると共に、彼らがかつてやつた事の偉大さと、我々がいかに大きな借物をしたかが分るだろう。

手始めにシグマ委員会から始めて見たら。日本人がみなその気になれば、出来ないことでは決してない。世界の核データの中心は日本、と世界が認めるようになったとて少しもおかしくないし、何でもかんでもとまでは行かないならせめてこの一つぐらいはやつて見たら。私のささやかな提案である。